

無線ＡＰ設置工事 仕様書

1 工事概要 概要	海老名本部管理・情報棟及び研究棟・実験棟（１階及び５階会議室）に無線ＡＰ用ＬＡＮケーブルの配線及び無線ＡＰの設置を行う。また、既設旧規格の有線ケーブルの撤去及び新規ケーブル（Cat.6）の敷設を行う。
工事場所	神奈川県海老名市下今泉 705-1 神奈川県立産業技術総合研究所
工事範囲	管理・情報棟 地下１階 図書室 １階 事務室、会議室、ロビー ２階 事務室、講堂、会議室等 ３階 会議室等 研究棟・実験棟 １階 研究室、実験棟廊下、実験室 ５階 会議室
工事箇所	図面参照
工期	契約日から令和８年２月２８日まで
工事内容	<p>海老名本部の管理・情報棟及び研究棟・実験棟の一部に対し、無線ＡＰの天井取付設置及び各階ＥＰＳからのＬＡＮケーブル敷設工事を行う。無線ＡＰの天井取付に当たっては、将来更新の際に天井に傷が残らないようポリ台をかませて設置すること。</p> <p>事務室及び研究室に係る旧規格ＬＡＮケーブル（Cat5）の部屋内への配管配線及びフリーアクセス内配線の更新（引き抜きと新ケーブル（Cat6）での敷設）を行う。</p> <p>また、フリーアクセス内に Cat6A で配線されている LAN 配線ケーブルについては、部屋内への導入部分でフリーアクセス内にコンセントを設置し、コンセントからの配線に変更する。この場合ＬＡＮケーブルは、Cat6A、Cat6 どちらでも可とする。</p>
2 共通事項 共通仕様	図面及び本仕様書に記載してある事項以外は、国土交通省大臣官房庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書」「建築工事標準図（電気設備工事編、機械設備工事編）」「同改修工事

標準詳細図」及び「公共建築設備工事標準仕様書（建築工事編、電気設備工事編、機械設備工事編）」の最新版による。

法令遵守	工事の実施にあたっては、本仕様書によるほか、最新の法令等を遵守すること。
作業時間	原則として、平日の 8 時 30 分から 17 時 15 分までの時間に行うが、事務室等に入室する作業や来客等の通行に支障が生じる作業、音の出る作業は、閉所日（土曜日曜及び祝日）に行うものとする。また、前記時間外の作業については許可を求めること。
保証期間	完成後 1 年間
作業届	当施設内に入る際には、原則として、総務課受付で入館手続きを行い、来庁者入退館カードを着用の上、作業に取り掛かること。作業終了後は同カードを返却して退館すること。
災害防止	安全対策には十分注意し、災害防止に努めること。なお、工事により第三者及び器物に損害等を与えた場合は、請負者の責任において速やかに処理すること。
清掃	作業終了後には、その日使用した資材及び作業具等の後片付け、作業箇所の床その他の清掃を行うとともに、火気の始末については厳重に注意すること。
3 特記事項	
施工計画書	工事の実施にあたっては、事前に工事施工計画書を提出すること。
現況調査	工事の実施にあたっては、事前に現況調査を行い、工事に支障が無いことを確認の上、行うこと。
留意点	<ul style="list-style-type: none">(1) 工事中は、各実験室に設置されている実験装置等に接触、激突等無きよう十分に安全対策を行うとともに、転倒防止処置など、事故防止に向けた安全管理を十分に行うこと。(2) 工事に必要な資材等の置き場所については、発注者と協議の上、指定された場所に搬入すること。(3) 工事に係る本施設内で使用する電気・水については発注者の負担とする。
養生等	工事の実施にあたっては、作業場所の安全確認には十分注意し、破壊・汚損する恐れがある場所等に適切な養生を行

うこと（特に、床上に設置されている実験用機材は精密機器であり、粉塵侵入防止を徹底する）。作業に起因して物品等に損害を与えた場合は、業者の責任において原型に復すること。また、火気を使用する場合は、事前にその旨を申請すること。

無石綿化への対応

請負者は、石綿による健康被害を防止するため、使用するすべての建材は、石綿を原材料としていないものを用いて施工すること。

発生材処理

請負者は、法に基づき廃棄物の適正な処理・委託を行うこと。

提出物

本工事の完了後、速やかに下記の図書等を作成し提出すること。

- ・LAN配線図面（DXF 及び DWG 形式）
- ・ケーブル敷設作業証跡
- ・物理収容表（ポート収容表）等
- ・その他必要なもの

※各成果物は2部ずつ納品するものとし、併せて電子ファイル（CD-R等）においても2セット納品すること。

その他

本工事で使用する車両は、神奈川県生活環境の保全に関する条例（平成9年神奈川県条例第35号）に規定する粒子状物質排出基準に適合した車両を使用するとともにエコドライブの実践に努めること。

特記仕様書

- 1 この工事で敷設するUTPケーブルは、Cat6を原則とする。
- 2 既設のP F管、ケーブルラックを利用すること。既設のP F管にUTPケーブル(Cat5)が入っている場合は、引き抜いて敷設すること。
- 3 UTPケーブルは、JIS X5150(構内情報配線システム9)の伝送測定士兼を実施すること。
- 4 事務室及び実験室のフリーアクセス内の配線は、各島まで床下にLANケーブルを敷設すること。